

次のお電話は第六小学校四年生の揚羽蝶子さんです。

—お電話ありがとうございます。昆虫食が世界を救うと聞いたけれど、自分は虫が大の苦手。どうしたらよいか、という質問ですね。虫はぜんぶ嫌いなんですか？ お名前に入ってるチョウも？ ははあ。目が複眼で口がストローとか意味がわからない。無表情すぎて何も考えていないみたいで気味が悪い。重症ですね。でもね。一寸の虫にも五分の魂というように、実はチョウもいろいろ考えているんですよ。

チョウのごはんは花の蜜ですけど、どうやって蜜の入っている花を探していると思いますか。そう！ 花の色を見ているみたいなんです。ワイスさんという方が、ランタナって花を使ってアゲハチョウに実験してます。ランタナの花はアジサイみたいな見た目で、小さいお花がたくさん集まった花房を作ります。花房の真ん中の方の花は黄色、その周りにピンクの花、一番外側にマゼンダの花が並んでます。それでワイスさん、黄色い花にだけ蜜が入ってる花房でチョウに食事させてみたんですね。そうしたらチョウは黄色い花を選ぶようになった。反対に、マゼンダの花にだけ蜜が入っている花房で食事させると、マゼンダを選ぶようになった。チョウは何色の花に蜜が入っているか学べるんですね。

ヤマダさんたちの日本のアゲハの実験も面白いですよ (Yamada et al., 2015)。チョウは生まれつき好きな色があって、アゲハは青色なんです。色紙を何種類か置いておくと、青の上止まることが多い。ところが隣にミカンの木を置いておくと緑を好きになる。ただしメスだけ。なんでだと思います？ そう！ アゲハの幼虫はミカンの葉っぱを食べますからね。ミカンの臭いでメスは産卵モードに入ったんでしょう。面白いのはね、蛹から羽化したばかりのメスでもそうなんですって。ね、チョウもいろいろ考えているでしょう？

え？ そんなにいろいろ考えてるんだったら可哀相で食べることなんかできない。なるほどね。でもね、カンドリさんたち (Kandori et al., 2009) の研究だと、チョウも種類によって学習能力が違うそうですよ。体が大きくて長生きのオオゴマダラとツマグロヒョウモンに比べて、体が小さくて寿命の短いモンシロチョウとベニジミは学習能力が低かったそうです。どうしてそんな違いがあると思いますか。一つは、体が小さいと脳も小さいから、覚えるのが遅いんじゃないかって話。もう一つは、寿命が短いと、生きている間に咲いている花の種類は変わらないから、あまり学習する必要がないからって話。二つ可能性があるようです。一寸の虫にも五分の魂って、そのままの意味だと小さい虫にも、それなりの魂ということですが、チョウチョも同じですね。小さいチョウには、小さいなりの学習能力なんですね。

それじゃいいですか？ うんうん、シジミチョウくらいなら大丈夫な気がしてきた。そこまで頭も良くないみたいだし、名前も食べ物みたいだし。今度、お父さんに頼んでお味噌汁に入れてみてもらう。そうかあ、それはどうかな。佃煮か甘露煮くらいがいいんじゃないかと思えますけど。はい、それじゃ、これからも好き嫌いせずにたくさん食べて、大きくなってくださいね。お電話ありがとうございました。

※執筆時が夏真っ盛りのため夏休み子ども電話相談を模してみました。筆者に出版時の季節を考えるような心の余裕が無いことが伺えます。なお、実際の回答もこのように適当だと揶揄する意図はありません。



Profile — 平石 界

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学、京都大学、安田女子大学を経て、2015年4月より現職。博士（学術）。専門は進化心理学。